令和７年度　　日野市立 大坂上中学校　　経営重点計画　　自己評価シート　　令和8年3月公表

★学校の教育目標　○よく考え進んで学ぼう　○思いやりの心を持ち他につくそう　○心身を鍛え全力でやり抜こう

★目指す学校像（ビジョン）

【目指す生徒像】 ①自ら学び、考え、何事に対しても主体的に取り組む生徒 ②豊かな心を持ち、決まりやマナーを守り社会のために役立とうとする生徒 ③学校行事、生徒会活動、部活動などを通して心身を鍛え、最後までやりぬく生徒　等

【目指す学校像】 ①一人一人の生徒を大切にし、鍛え、可能性を伸ばす学校 ②心を豊かに育み、規範意識を持って社会に貢献できる生徒を育てる学校 ③生徒同士、生徒と教員が相互に信頼する温かい学校　等

【目指す教師像】 ①生徒の良さや能力を引き出し、学力を高める指導をする教師 ②生徒の心の豊さを育み、規範意識・人や社会への貢献の大切さを教え、実行させる教師 ③生徒の心身を鍛えるための指導法の工夫や努力を惜しまない教師　等

★重点計画の概要

「学びの変革プロジェクト」

第４次日野市学校教育基本構想に基づき、「学びの変革プロジェクト」を実施する。各教科における探究的な学びを深めていく足がかりとして、令和7年度入学生から、総合的な学習の時間の内容について見直しを図り、地域（日野市）をテーマにした探究学習を進めていく。また、令和6年度に学習・情報センターとして整備した学校図書館における探究学習を中心とした授業実践を行い、生徒が個々の課題解決に取り組むことができる授業への変革を目指していく。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準 評価点	取組指標	評価点	成果指標	学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	自分に合った学びと学び方を通じて、探究的で深い学びを実現する 「学びの変革プロジェクト」	学指導要領に基づく適正な教育課程の編成・実施及び授業と評価の一体化を推進する。	「総合的な学習の時間」において「地域（日野市）」をテーマに設定し、生徒自らが設定した課題に取り組ませる（1学年）。学習・情報センターである学校図書館における授業実践を積極的に行う。言語活動・話し合い活動を充実させることで、生徒による自主的な活動を展開する。授業の終末では振り返りを行わせ、自らの変容を確認させるとともに次に授業への見通しをもたせる。	2	4　90%以上の教員が「自分で考え、自分で課題解決に取り組む授業」の実践に努めたと回答 3　80%以上の教員が「自分で考え、自分で課題解決に取り組む授業」の実践に努めたと回答 2　60%以上の教員が「自分で考え、自分で課題解決に取り組む授業」の実践に努めたと回答 1　「自分で考え、自分で課題解決に取り組む授業」の実践に努めたと回答した教員が60%未満	4	4　90%以上の生徒が「授業の場において、自分で考え、自分で課題解決に取り組めた」と回答 3　80%以上の生徒が「授業の場において、自分で考え、自分で課題解決に取り組めた」と回答 2　60%以上の生徒が「授業の場において、自分で考え、自分で課題解決に取り組める授業である」と回答 1　「「授業の場において、自分で考え、自分で課題解決に取り組めた」と回答」と回答した生徒は60%未満	・先生方の日頃の取り組みが 成果として現われていると思います。学校図書館の資料を探す際の分類記号について理解しているか。 ・プレゼンの指導をしてもらえる講師の先生を招く取組ができないか。 ・将来学んだことがどのように生かされるのかを大切にし、テーマについても柔軟な対応ができるとよい。	主体的な活動は一定程度定着してきたといえる。一方、教員の実践率は76,9%にとどまり、取組への意識や支援方法に差が見られる。今後は生徒の具体的な活動事例を共有し、授業や行事で主体性を引き出す場面を意図的に設定することで、教員の実践力向上を図る。
	社会の一員としての自覚を持ち行動する姿勢を育成する	身近にある様々な課題を、自分事としてとらえ、変化を起こすために必要なことを考えさせることで、責任をもって行動し最後までやり抜くことができる生徒を育てる。	生徒会を中心に、令和5年度の全校アンケートにより設定した坂中生のありたい姿、「尊重・伝統・進化・自律」に基づく、委員会を中心とした「生徒会プロジェクト」を推進し、生徒自らがよりよい生活とは何かを考え、具体的に行動できるようにする。	2	4　90%以上の教員が教育活動を通し、生徒の社会参画への意識醸成に努めたと回答 3　80%以上の教員が教育活動を通し、生徒の社会参画への意識醸成に努めたと回答 2　60%以上の教員が教育活動を通し、生徒の社会参画への意識醸成に努めたと回答 1　生徒の社会参画への意識醸成に努めたと回答した教員が60%未満	2	4　90%以上の生徒が、仲間や友達と話し合いながら、学校生活をよりよくできたと回答 3　80%以上の生徒が、仲間や友達と話し合いながら、学校生活をよりよくできたと回答 2　60%以上の生徒が、仲間や友達と話し合いながら、学校生活をよりよくできたと回答 1　「学校をよりよくできた」と回答した生徒が60%未満	・「何事も自分の事として進んで取り組む」ことを、日々繰り返し子どもたちに伝えていただきたい。 ・お互いに協力しあえる優しさも育つと良い。 ・教員からの指導よりも自ら問題を解決できる力をつけてほしいと思う。	生徒会プロジェクトは一定の成果を上げている。一方で教員の関与に差が見られ、生徒の主体的活動を十分に支えきれていない場面も考えられる。今後は委員会活動の成果を可視化・共有し、教員が生徒の取組を後押しする体制を整えることで、実践の質を高めていく。
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	多様な個性を認め合える安心・安全で何事にも挑戦できる環境をつくる	自他の生命を尊重し、より良い人間関係を築くことのできる教育を推進する	全ての教育活動を通して「生命尊重」の精神を育てる。各種アンケートを通し、安心安全な学校生活を保障するとともに、一人一人に対して丁寧な指導・対応を通して、すべての生徒が安心して充実した学校生活を送ることができる教育環境の整備に努める。登校がかなわない生徒にも校内登校支援教室や、個別相談等を通して教室復帰の道筋を作る。	4	4　95%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答 3　90%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答 2　85%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答 1　いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答した教員は85%未満	1	4　95%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることがないと回答 3　90%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることがないと回答 2　85%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることがない 1　生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることがない85%未満	・不登校支援の開室日が増えたのは生徒や保護者にとってありがたい。 ・夏休みサポート教室は、休み明けにリズムを取り戻す機会になる。 ・規範意識がやや低いのが気になる。道徳で気持ちを想像する場面を意識して作っていただきたい。 ・心の教育が自分たちの関係をよくするという意識をもちたい。	教員は100%が取組を実践できたと回答し、支援体制は概ね整っている。一方、生徒の肯定的評価は現状維持の目標値85%を下回った。支援が十分に生徒の安心感として実感されていない可能性がある。今後は支援内容を生徒に丁寧に伝え、声を聴きながら個別支援の質を高めていく必要がある。
	特別支援教育の充実を図る	特別な支援を必要とする生徒の実態を的確に把握し、校内外にお支援体制を整備し、個に応じた支援を進める。	校内委員会を定期的に開催することで生徒の実態を共通理解し共通実践を図る。管理職、各学年に配置した特別支援コーディネーター・ＳＣ・養護教諭・家庭と子供の支援員との連携により、生徒や家庭を支援し、関係諸機関との相談・支援体制を整える。	1	4　95%以上の教員が校内委員会にあがった生徒の実態把握ができ指導に生かせたと回答 3　90%以上の教員が校内委員会にあがった生徒の実態把握ができ指導に生かせたと回答 2　85%以上の教員が校内委員会にあがった生徒の実態把握ができ指導に生かせたと回答 1　校内委員会にあがった生徒の実態把握ができ指導に生かせたと回答した教員は85%未満	2	4　80%以上の保護者が、学校の子供への支援が合理的で適切であると回答 3　70%以上の保護者が、学校の子供への支援が合理的で適切であると回答 2　60%以上の保護者が、学校の子供への支援が合理的で適切であると回答 1　学校の子供への支援が合理的で適切であると回答した保護者は60%未満	・子家センネットワーク会議や連絡会で主任児童委員にも情報が伝えらる。地域の見守りの目として、地域担当の民生委員と共に 協力していきたい。 ・関係諸機関と連携してさらに改善できるよう努力してほしい。 ・否定的な回答をしている15%にも目を向けたい。	教員の評価が昨年度を下回り、取組の意義や成果が十分に共有されていないことに課題である。また、保護者評価も63.1%と低く、支援体制が見えにくい状況がうかがえる。今後は委員会での協議内容や支援の流れを分かりやすく発信し、家庭との情報共有と信頼関係の強化を図る必要がある。
社会と未来に開き、みんなでつくる	小中高の連携を深め、協力体制の推進を図る	小・中連携教育の取組を深め、義務教育9年間の連続性を持たせ、生徒を育成する。日野台高校との連携を深める。	小・中教員による教科・領域の研究授業・出前授業・協議会等を通し、教科や生活指導の連携を図り、小中連携教育を推進する。 校区の小学校や日野台高校等、地域の他校種の学校と交流することで、本校への理解を深めてもらうとともに、協力が得られるような体制づくりをする。	1	4　95%以上の教員が他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答 3　90%以上の教員が他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答 2　80%以上の教員が他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答 1　他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答した教員が80%未満	1	4　95%以上の教員が小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答 3　90%以上の教員が小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答 2　80%以上の教員が小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答 1　小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答した教員は80%未満	・小学校６年生が坂中を訪れて、授業や部活の見学をしたり、先生方と お話しできるような取り組みはできないか。 中高の連携は、日野台高校の先生や生徒を招いて、一緒になれる機会を設けることができたらと思う。 ・さらなる推進をお願いしたい。	教員の肯定的評価は61.5%と昨年度を大きく下回り、研究授業や協議が実践や日常指導に十分結び付いていないことが課題である。今後は連携の目的や成果を明確にし、授業改善に直結する協議内容の工夫や、実践事例の共有を組織的に行い、連携の実感を高めていく必要がある。
	地域・社会との連携を深める	学校と地域・社会との相互の交流を活性化する	教育計画（SDGｓカレンダー等）の中に、地域人材や事業所等の活用を位置付けるとともに、生徒へ地域参加への呼びかけや情報提供の機会を増やす。 また、学校Ｗｅｂサイトを通し、広く地域に学校教育の様子を発信する	1	4　90%以上の教員が地域人材や事業所等を活用することができたと回答 3　80%以上の教員が地域人材や事業所等を活用することができたと回答 2　70%以上の教員が地域人材や事業所等を活用することができたと回答 1　地域人材や事業所等を活用することができたと回答した教員が70%未満	1	4　80%以上の保護者が生徒と地域とのつながりを実感したと回答 3　70%以上の保護者が生徒と地域とのつながりを実感したと回答 2　60%以上の保護者が生徒と地域とのつながりを実感したと回答 1　生徒と地域とのつながりを実感したと回答した保護者は60%未満	・育成会でも地域の親子に働きかける活動をおこなっているが、回答が５９%と低く、地域団体として課題を感じる。ボランティアへの参加を坂中だよりで呼び掛けてくださったように、来年度も先生方から声掛けしていただけたらと思う。 ・子供たちが地域で貢献できる活動に結びつけ協働で推進したい。	肯定的評価が6割前後にとどまり、昨年度を下回ったことから、地域との交流が一過性に終わり、成果が十分共有されていないことが課題である。今後は交流の目的を明確にし、学習や行事と関連付けるとともに、保護者や地域へ成果を発信し、つながりを実感できる取組へと改善する必要がある。

※評価指標・評価基準は、２の段階を現状としています。